

世界に発信する高校生育成事業

- ・グローバル化が急速に進展
- ・国内外において外国語での意思疎通が不可欠

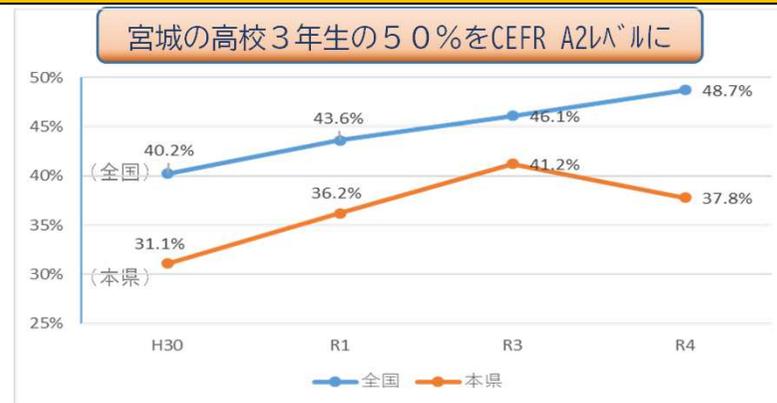


「英語を通じて情報や考えなどを的確に理解する力」
 「英語を用いて適切に自分の考えなどを伝える力」の育成が求められる

宮城の高校3年生の英語力は全国平均から乖離

- ①生徒が日常生活で英語を使う場面が少ない
→ **明確な英語学習の目的・目標**が必要
- ②英語の4技能（特に「話す力」「聞く力」）は個人差大
→ **個々のレベルに応じた指導**が必要
- ③教員が生徒一人ひとりの「話す力」「聞く力」を確認し評価することは難しい
→ 「話す力」「聞く力」を育成し、**評価する方法**が必要
- ④探究活動の発表（プレゼンテーションやグループワーク等）においても、日本語が多く、英語による実践は発展途上
→ 英語による**発信力を伸ばす学習方法の工夫**が必要

生徒が実際に英語を使う体験を通して、世界に自分の考えを発信できる英語力を育成する。



英語教育実施状況調査

※ R2の全国調査は中止

英語力向上

指導力向上

- ① 県内の高校生（研究指定校4校・500人）を対象に「英語力エンパワーメントプログラム」を実施
 - ・ICTを活用し、海外にいるネイティブとの1対1の英語コミュニケーション実践（1回25分程度、年間10回程度）
- ② オンラインで海外高校生との交流活動を実施
 - ・言語文化の交流からグローバル感覚を育成
 - ・海外の学校等との国際交流の取組を促進
「meet classmates」
- ③ 発信力を伸ばすための指導法の工夫・パフォーマンステストの研究
 - ・CAN-DOリストに基づいた指導改善
 - ・ルーブリックを用いた評価法の工夫

県内の高等学校

- ・指導法や交流活動についての情報共有
- ・パフォーマンステストの共有
- ・評価方法の共有

県教育委員会

- ・指導法や評価方法への指導助言
- ・研究成果の情報発信

高校生の英語力・教員の指導力向上

宮城県全体の英語力の向上